

看護学校だより



浜田医療センター附属看護学校(はまかん) <https://hamada.hosp.go.jp/hamakan/>

ホームページ

基礎看護学実習Ⅰのまとめの会が行われました

2月に基礎看護学実習Ⅰのまとめの会を行いました。学生たちは、実際に関わった患者さんの入院生活の様子や、身体の状態・気持ちの変化を振り返りながら、「どんなことが自分でできていて、どんなところに助けが必要だったのか」を一つひとつ考えました。

学生はこの会を通して、患者さんの求めているニーズをとらえることが看護の第一歩であるということを学ぶことができました。

学生たちは日々行われている看護ケアについて、「なぜその援助が必要なのか」という根拠が大切であること、そして患者さんが自分でできる力を大事にしながら支えることが重要だと実感したようでした。今回の学びを活かし、6月からはじまる基礎看護学実習Ⅱに向けて、より根拠に基づいた看護を実践できることを期待しています。



専門性を深め、国家試験への土台づくり

3年生は、成人・老年、小児、母性、地域在宅、精神など、領域ごとの実習に取り組んでいます。隣接する浜田医療センターで大半は実習ができる環境ですが、訪問看護ステーションや助産院など、学外の施設でも実習を行っています。実際の臨床現場では、看護過程の展開を通して個別性のある看護を考え、実践するとともに、多職種連携を含むチーム医療の重要性について学んでいます。これらの実習での学びは、国家試験に向けた理解の基礎を固めることにもつながっています。患者さんを受け持つ中で、観察やアセスメントの重要性、そしてケアを実践することの難しさを痛感する場面もありますが、学生一人ひとりが経験を積み重ねながら確実に成長できるよう、学校職員一同でしっかりとサポートしていきます。



36名が入学、西部地域の医療を担う第一歩

4月、穏やかな春の陽ざしに包まれる中、入学式が執り行われました。今年度は編入生を含めた36名が本校の門をくぐり、それぞれが看護師をめざす思いを胸に、新たな学びの一步を踏み出しました。式の間、新入生の表情には期待と緊張が入り混じりながらも、これから始まる学校生活への前向きな意欲が感じられました。

看護の学びでは、専門的な知識や技術だけでなく、患者さんに寄り添う姿勢が求められます。道のりは決して平坦ではありませんが、仲間と励まし合い、支え合いながら

経験を積んでいくことで、大きく成長していくことでしょう。

本校はこれまで、地域に根ざした看護教育を大切にし、地域の医療を担う人材の育成に力を注ぎできました。新たに加わった36名の学生たちが、将来、西部地域の医療を支え、地域に貢献できる看護職へと成長してくれることを、教職員一同、心より願っています。これからの学びが実り豊かなものとなるよう、学校全体でしっかりとサポートしてまいります。



緑に囲まれた、心落ち着く学びの空間へ

この春、学生の学習環境をより快適にするため、図書室がリニューアル中です。今回の第1弾のリニューアルでは、カウンターや観葉植物を取り入れ、緑あふれる癒しの空間へと生まれ変わりました。植物の緑は、集中力の向上や気分のリフレッシュを促す効果があると言われており、学生からも「落ち着いて勉強できる」「気持ちが和らぎ、長時間の学習がしやすくなった」との声が寄せられています。個別学習スペースとグループ学習スペースがバランスよく配置され、自主学习だけでなく、国家試験対策や課題学習にも活用しやすい環境となりました。新しくなった図書室が、学生一人ひとりの学びを後押しする場として、これからますます活用されることを期待しています。



Instagram・TikTokにも
掲載しています。ぜひご覧ください

浜田医療センター附属看護学校
イメージキャラクター「ハマミちゃん」



@HAMAKANGAKKOU

